

# 25 社会教育施設の活用

第3期プラン 3-(1)-イ

県民の高度化、多様化する学習ニーズに対応するため、社会教育施設は、学びのプログラムの提供や施設の充実を図るとともに、県民の積極的な社会教育施設の活用によるライフステージに応じた探究的な学習活動を促進する。また、学校園は指導の充実を図るため、社会教育施設を効果的に活用する。

令和4年度  
重点実践事項

● 探究的な学習での社会教育施設の積極的な活用

実践目標

1

社会教育施設の活用を促進する



## 重点! ①社会教育施設の活用

全社

地域課題の解決をめざした学びを行う際には、社会教育施設が持つ地域資料の利用や地域の特色をいかした学習活動事業への参加など、施設を有効に活用する。

## ②美術館・博物館の活用

全社

美術館・博物館が提供する企画・展示・演示や学習活動に効果的なアウトリーチ活動(出前講座・ワークショップ等)・学習プログラム等を積極的に活用し、幼児児童生徒の知的好奇心を高め、探究的な学習への動機付けや深化を図るとともに、教職員の研修等にも活用する。



体験的な学習のあり方についての教員研修  
(県立歴史博物館)

## ③読書活動の支援

全社

子どもの読書活動を支援するため、公立図書館の資料やレファレンス(調査・相談)機能を積極的に活用する。また、「ひょうご子どもの読書活動推進計画(第4次)」に基づき、公立図書館が開催する職員研修や学校サポート講座等を有効に活用し、学習活動における学校図書館の活用を促進し、発達段階に応じた体系的な読書指導を推進する。

### 【あなたの学校園にコウノトリがやってくる】

社会教育施設では、生涯学習社会の形成に向け、特色をいかした様々な教育普及事業を実施し、学校との連携(博学連携)をすすめています。

県立コウノトリの郷公園では、一度絶滅したコウノトリを保護増殖し、野生復帰させる取組を通じて、人間もコウノトリも安心して住める豊かな自然環境をめざし、学校団体の受け入れだけでなく、アウトリーチ活動として出前講座を行っています。

コウノトリの保護増殖と野生復帰についての講話やコウノトリの絵本の読み聞かせなど、それぞれの学校園の実態に合わせて実施しています。

また、「コウノトリのはく製」をはじめとする実物も活用し、ホンモノを体験することもできます。

社会教育施設では、子どもがホンモノに出会う感動を体験できるように、学校との積極的な連携をめざしています。



出前講座「コウノトリのはく製体験」  
(県立コウノトリの郷公園)

### 県立考古博物館～五感で伝える歴史体験～

県立考古博物館は遺跡や考古資料を活用し、子どもたちが昔の人びとの暮らしや知恵を学び、よりよい未来づくりにつながることをめざしたプログラムを用意して、学校団体を受け入れています。展示室では、考古資料を間近に観察できるように展示し、リアルに再現された実物大のジオラマによって当時の環境や暮らしを実感できます。

学校団体用としては、本物の土器に触れたり、隣接する国指定史跡大中遺跡の公園を巡って復元された竪穴住居に入ったりする古代体験プログラムを用意しており、弥生時代のムラの様子を五感で体験することができます。

子どもたちがホンモノに出会う感動を体験できるように、社会教育施設は学校との積極的な連携をめざしています。



古代体験プログラム「大中探検隊」



ドングリを調べる



「土器に触れよう」



弥生のくらしまちがいさがい

3

人生100年を通じた学びの推進